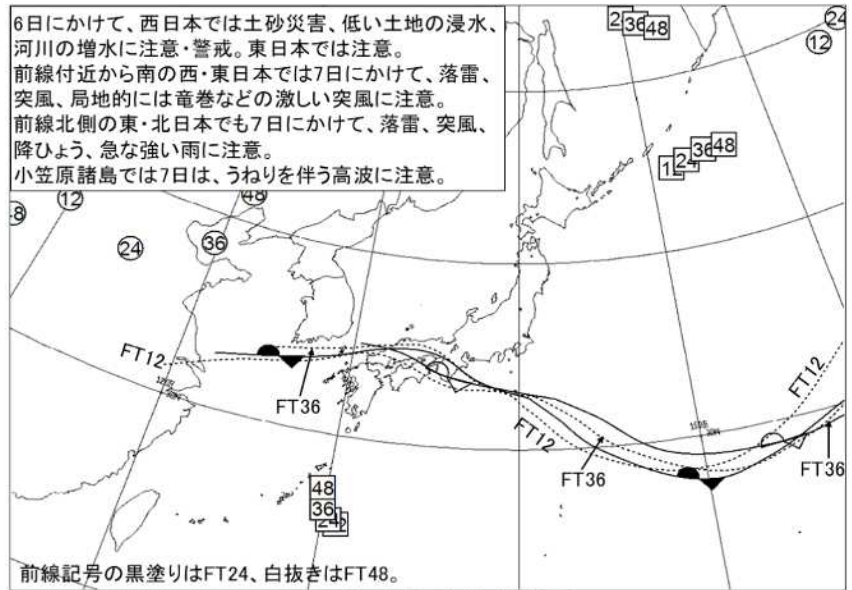


1. 実況上の着目点

① 500hPa5820m付近に沿う前線が対馬近海～西日本～伊豆諸島近海に停滞。短波トラフに対応してまとまった雲域が前線に沿って進み、雲バンド南縁の下層暖湿気の収束域で対流雲が発達している。紀伊半島沖から伊豆諸島にかけてにんじん状雲。一時猛烈な雨を解析し、対流雲発生点で発雷を検知。次の雲域は黄海から東シナ海を東進。

② 台風第10号が華南の沿岸を北上。華中にかけては地上で広く露点温度25℃前後、相当温位360K弱を観測し、対流が活発。上昇した水蒸気が上中層の厚い湿潤層をもつ雲バンドとして本邦に流れ込み、対流雲の発達要因の一つとなっている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、6日にかけて西日本から伊豆諸島近海にはほぼ停滞する。また、1項①の短波トラフに伴う雲域内では前線が北に盛り上がり、前線に向かう下層暖湿気の流れ込みが強まり、大気の状態が非常に不安定となる。短波トラフは、5日夜に東日本に達するものと6日朝に西日本に達する次のものが見込まれるが、沖縄近海に中心をもつ太平洋高気圧が北に張り出し、前線は九州付近で徐々に北上。また、1項②の水蒸気の流れも次第に黄海から中国東北区に向かうように変わり、本邦への流れ込みが弱まることから、7日には前線は西から不明瞭になっていく。このため、5日朝から6日にかけて断続的に、再び九州北部地方を中心に激しい雨や非常に激しい雨が降って、西日本から東日本にかけて大雨となる所がある。特に九州北部地方では、5日昼前から昼過ぎにかけて線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。6日にかけて、西日本では土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東日本でも注意。また、前線付近から南の西・東日本では7日にかけて、落雷、突風、局地的には竜巻などの激しい突風にも注意。

② 7日にかけて、東・北日本の太平洋側では、千島近海をゆっくり東へ移動する高気圧西側の流れや前線の北側の流れに沿って、下層暖湿気が太平洋側から流れ込む。日本海側では2項①の北上傾向を示す前線付近の下層暖湿気が加わる。これらに上層寒気や正渦度の影響が加わり、大気の状態が不安定となる所がある。前線北側の東・北日本でも7日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

③ 7日には、台風第9号周辺を波源とするうねりが南西諸島や西・東日本太平洋側に到達し、波がやや高くなる所がある。次第に高まる高波に留意。小笠原諸島では、うねりを伴う高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考にする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間):九州北部150mm。② 波浪(明日まで):高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報(大雨)を5時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。